

第52回景況アンケート調査 結果報告書

(令和3年10月31日作成)

足利商工会議所

足利市通3丁目2757
TEL0284-21-1354 Fax0284-21-6294

《令和3年7月～9月期》実績 《令和3年10月～12月期》見通し

調査要領

1. 調査目的

本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、今後の経営支援や関係機関への施策、要望等の参考に資することを目的とする。

2. 調査期間

令和3年9月27日（月）～令和3年10月15日（金）

3. 調査対象企業

足利商工会議所議員事業所、足利地区雇用協会事業所など市内主要企業213社
(うち回答企業数171社：回答率80.3%)

4. 回答企業数

製造業	61 社
織維工業	18 社
建設業・設備工事業	23 社
卸売業・小売業	30 社
飲食業・サービス業	39 社
計	171 社

5. 景況指数D Iについて

分析方法[景況動向指数(D I)による]

景況指数は、好況・不況の差を指数にしたものであり、基準指数が「0」で、上限はプラス100・マイナス100となり、プラスは景況の好転(増加)、マイナスは景況の悪化(減少)をあらわしている。

D Iについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要になっている。

$$D\ I\ 方式は、 \frac{3x - 3z}{3x + 4y + 3z} \times 100 \text{により算出}$$

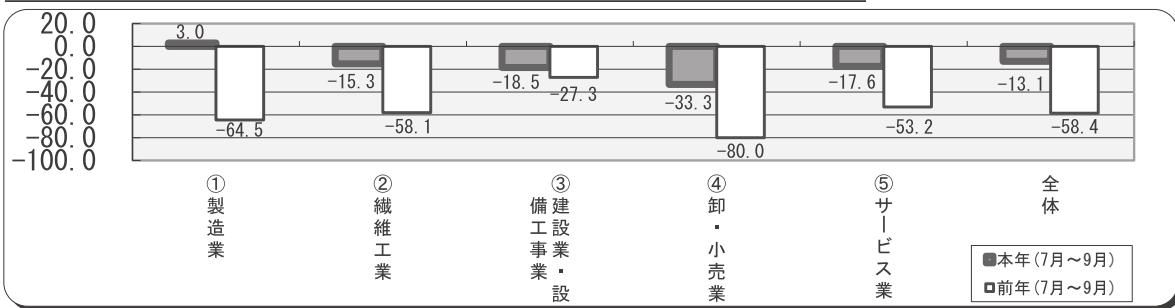
x : 「好転」「増加」「上昇」等の回答企業数

y : 「普通」「適正」の回答企業数

z : 「悪化」「減少」「下落」等の回答企業数

I. 当期（7月～9月）の景況について

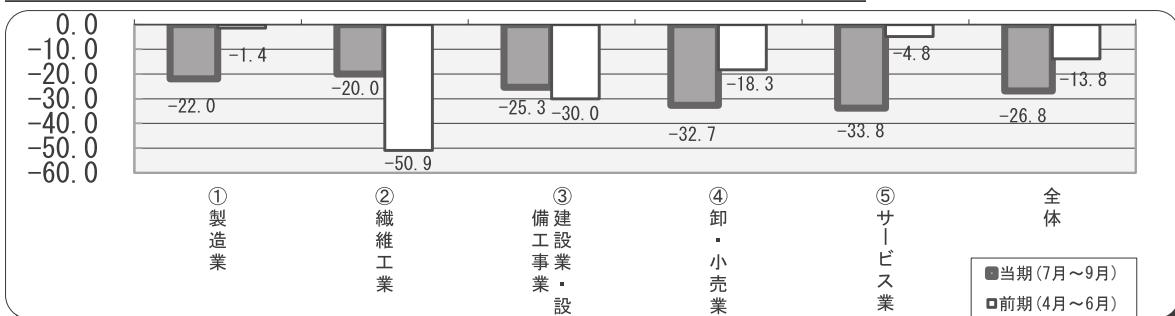
1. 当期の業況は前年同期（1年前）に比べて



【業況 D I】

当期の業況D Iは、全体では▲13.1ポイント（前年同期▲58.4）と、前年同期に比べて45.4ポイントマイナス幅が縮小した。業種別でも、全ての業種でマイナス幅が減少し、昨年よりも好転したと回答する企業が多くた。特に製造業では3.0ポイントと、前年同月に比べると67.5ポイント上昇しプラスに転じた。

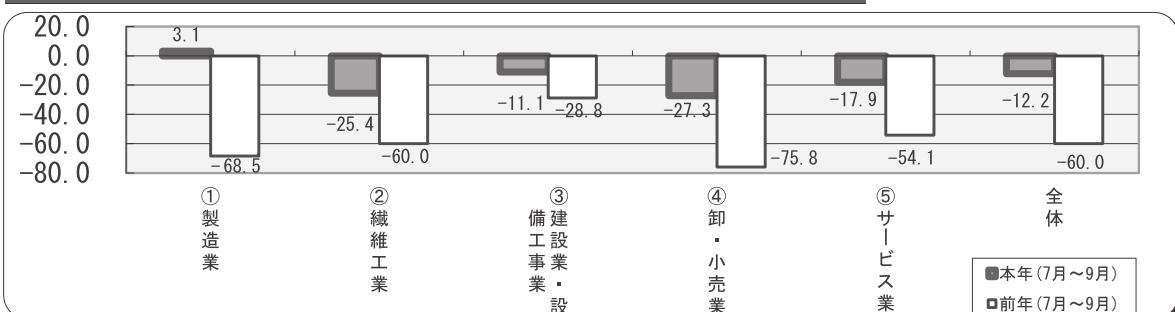
2. 当期の業況は前期（3ヵ月間）に比べて



【前期（前3ヵ月間）業況 D I】

当期の業況D Iは、全体では▲26.8ポイント（前期▲13.8）と、前期（前3ヵ月間）に比べて▲13.0ポイントマイナス幅が拡大した。業種別では、繊維工業が30.9ポイントマイナス幅が縮小したが、建設業・設備工事業はほぼ横ばい、製造業、卸・小売業、サービス業ではそれぞれマイナス幅が拡大し、悪化した。

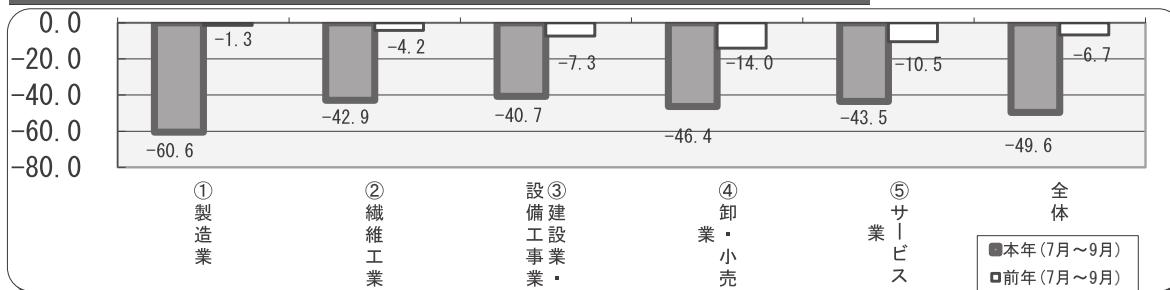
3. 売上高は前年同期に比べて



【売上高前期D I】

売上高D Iは、全体では▲12.2ポイント（前年同期▲60.0）と47.8ポイントマイナス幅が縮小している。業種別では、製造業では、3.1ポイントと前年同期と比べ71.6ポイントプラスに転じ、回復傾向にある。繊維工業は34.6ポイント、建設業・設備工事業は17.7ポイント、卸・小売業は48.6ポイント、サービス業は36.2ポイントといずれもマイナス幅は縮小したものの、依然として悪化傾向が続く。

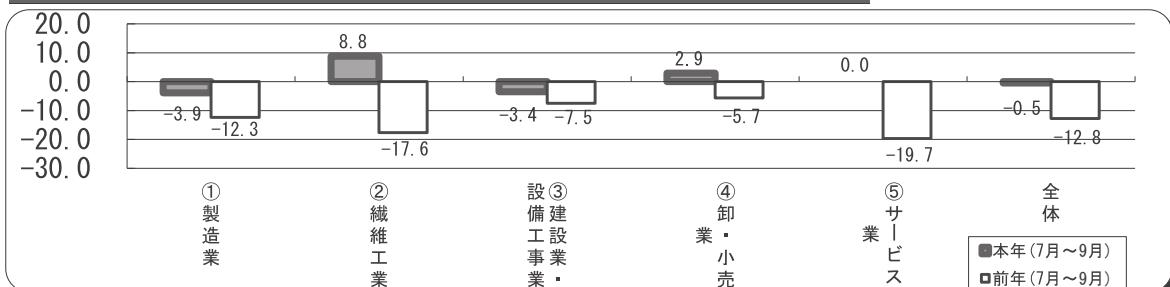
4. 仕入価格（原材料）は前年同期に比べて



【仕入価格（原材料）D I】

仕入価格（原材料）D Iは、全体では▲49.6ポイント（前年同期▲6.7）と前年同期に比べて42.9ポイントマイナス幅が拡大した。業種別でも、全業種でマイナス幅が大幅に拡大しており、全体的に仕入価格が上昇しているようだ。

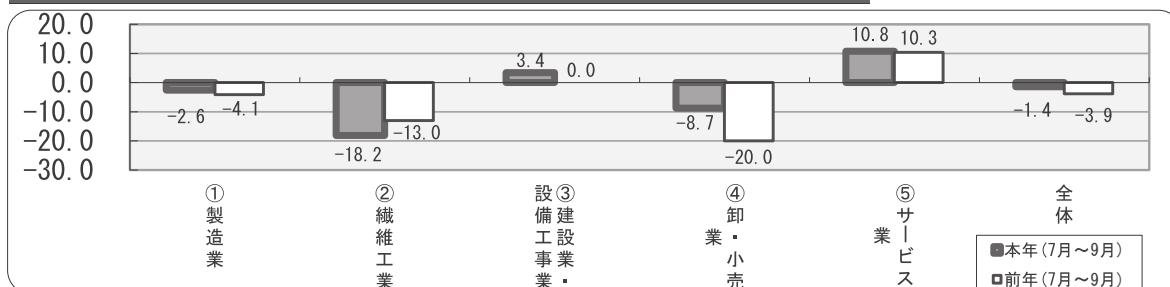
5. 受注・販売価格は前年同期に比べて



【受注・販売価格D I】

受注・販売価格D Iは、全体では▲0.5ポイント（前年同期▲12.8）と前年同期と比べ12.3ポイントマイナス幅が縮小した。業種別でも、全ての業種で下マイナス幅が縮小し、サービス業では昨年同期と同等という回答が多くなった。一方、繊維工業は26.5ポイント、卸・小売業は8.6ポイントでプラスに転じ、受注・販売価格に回復の兆しが見られる。

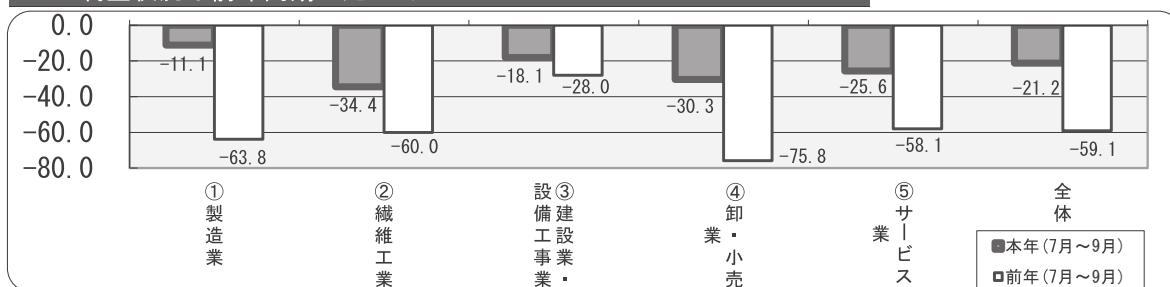
6. 当期の製品（材料）在庫は前年同期に比べて



【在庫D I】

当期の製品（材料）在庫D Iは、全体では▲1.4ポイント（前年同期▲3.9）と、前年同期に比べて2.4ポイント回復した。業種別では、製造業、建設業・設備工事は昨年同様適正と答える事業所が多い。繊維工業が在庫不足にある一方、サービス業は、在庫過多の傾向にある。

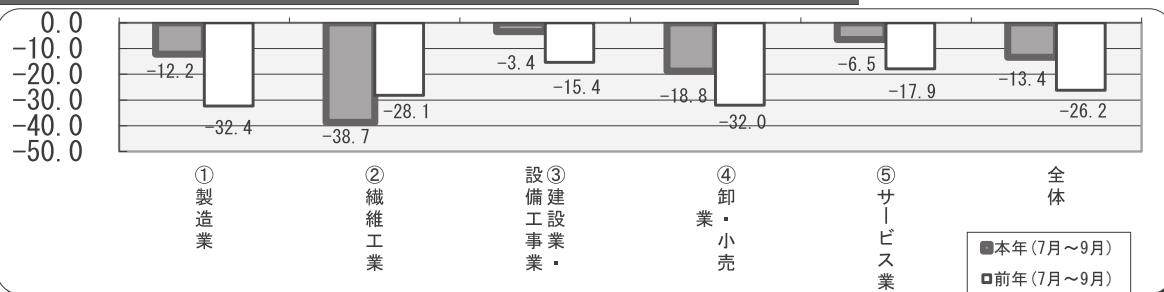
7. 利益状況は前年同期に比べて



【利益状況D I】

利益状況D Iは、全体では▲21.2ポイント（前年同期▲59.1）と、前年同期と比べて37.9ポイントマイナス幅が縮小した。業種別でも、すべての業種でマイナス幅が縮小しているが、利益状況は依然減少傾向にある。

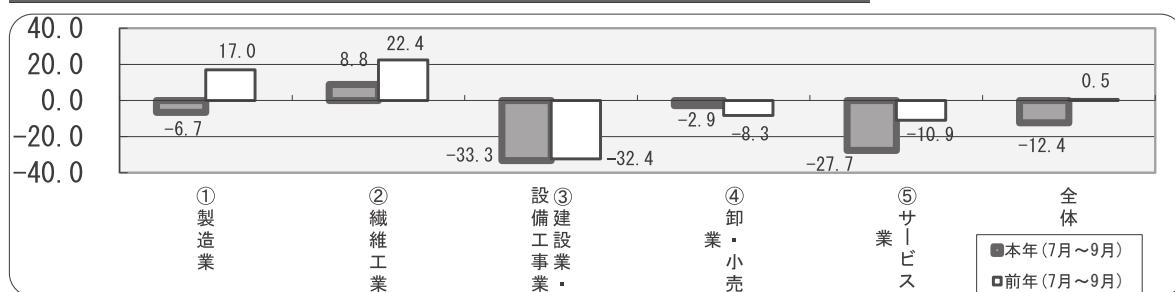
8. 資金繰りは前年同期に比べて



【資金繰り D I】

資金繰り D I は、全体では▲13.4ポイント（前年同期▲26.2）と、前年同期と比べて12.9ポイントマイナス幅が縮小した。業種別では製造業は20.1ポイント、建設業・設備工事業は11.9ポイント、卸小売業は13.3ポイント、サービス業は11.4ポイントマイナス幅が縮小し、前年同期と比べ回復しているが、繊維工業においては10.6ポイント悪化した。

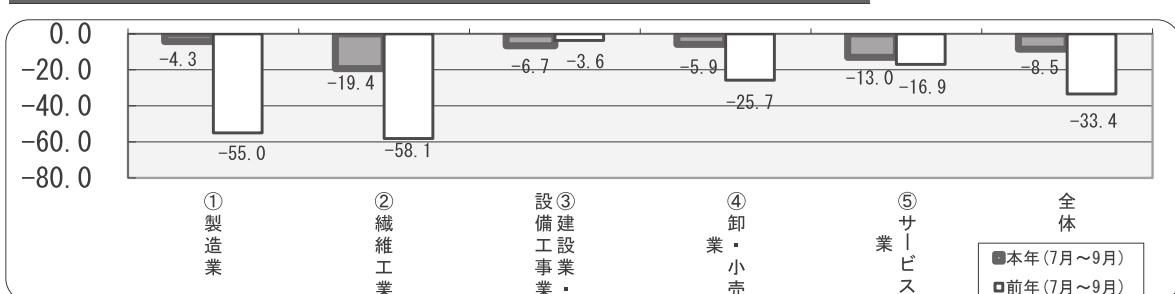
9. 労働力は前年同期に比べて



【労働力 D I】

労働力 D I は、全体で▲12.4ポイント（前年同期0.5）と、前年同期に比べて▲12.9ポイント悪化しマイナス幅が拡大した。業種別では、製造業が23.6ポイント、繊維工業が13.6ポイント、サービス業が16.7ポイントマイナス幅が拡大し、労働力の不足が見られる。

10. 設備稼働率は前年同期に比べて

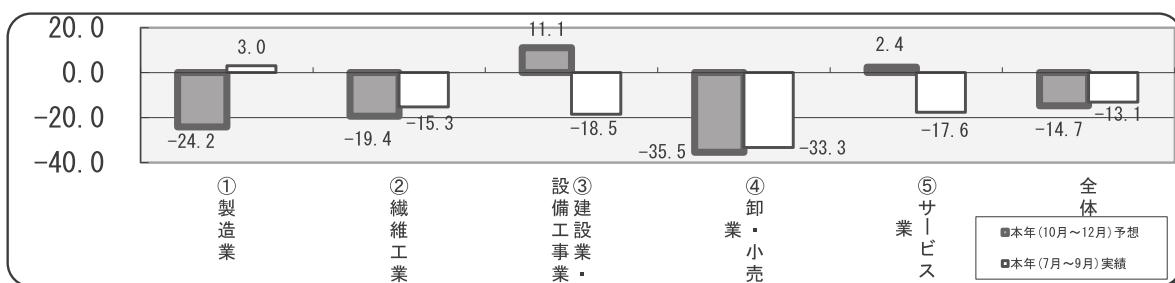


【設備稼働率 D I】

設備稼働率 D I は、全体で▲8.5ポイント（前年同期▲33.4）と、前年同期に比べて25.0ポイントマイナス幅が縮小。業種別では、製造業が50.7ポイント、繊維工業が38.7ポイントと大幅にマイナス幅が縮小されたが、依然低下傾向である。

II. 今後3ヵ月間(令和3年10月～12月)の推移の予想について

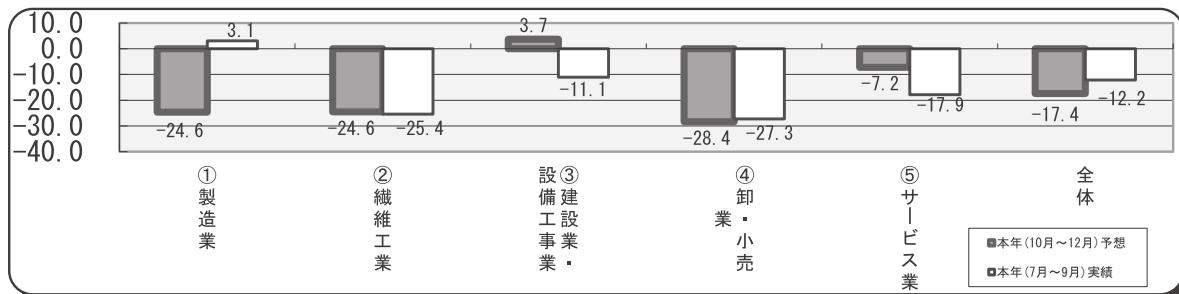
11. 業況は当期（7月～9月期）に比べて



【業況(当期に比べて) D I】

今後3ヵ月間の先行き見通しD Iは、全体で▲14.7ポイント(当期▲13.1)と、▲1.6ポイントマイナス幅がやや拡大した。業種別では、製造業が27.2ポイントマイナス幅が拡大、プラスからマイナスに転じ、悪化するという回答が多く見られた。一方、建設業・設備工事業は29.6ポイント、サービス業は20.0ポイント上昇し、プラスに転じ、好転すると予想する回答が多かった。

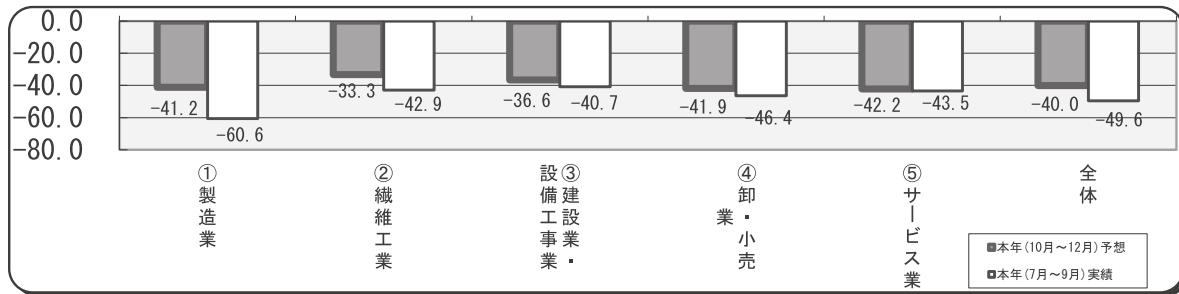
12. 売上高は当期(7月～9月期)に比べて



【売上高(当期に比べて) D I】

売上高D Iは全体で▲17.4ポイント(当期▲12.2)と5.2ポイントマイナス幅が拡大する見込みで、依然マイナス傾向。業種別では、製造業が27.7ポイントマイナス幅が拡大、プラスからマイナスに転じ、減少する見込み。一方、建設業・設備工事は14.8ポイントでプラスに転じ、増加する見込み。

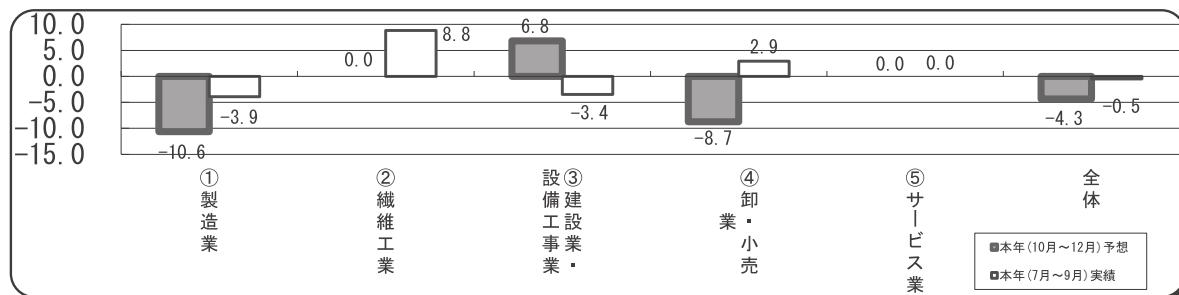
13. 仕入価格(原材料)は当期(7月～9月期)に比べて



【仕入価格(原材料) D I】

仕入価格(原材料) D Iは全体で▲40.0ポイント(当期▲49.6)と、9.6ポイントマイナス幅が縮小する見込み。業種別ではすべての業種で多少マイナス幅が縮小されているが、依然として価格の上昇が続く見込み。

14. 受注・販売価格は当期(7月～9月期)に比べて



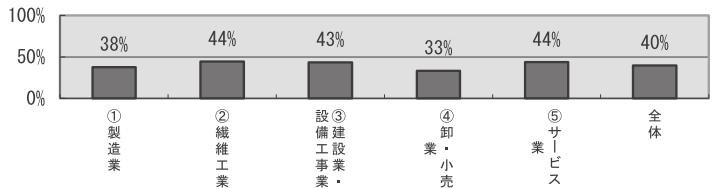
【受注・販売価格D I】

受注・販売価格D Iは全体で▲4.3ポイント(当期▲0.5)と、マイナス幅は拡大する見込み。業種別では、製造業が6.7ポイント、卸・小売業が11.7ポイントマイナス幅が拡大し下落する見込み。一方で、建設業・設備工事業ではマイナスからプラスに転じ、価格の上昇を見込んでいる。

III. 当期直面している経営上の問題点

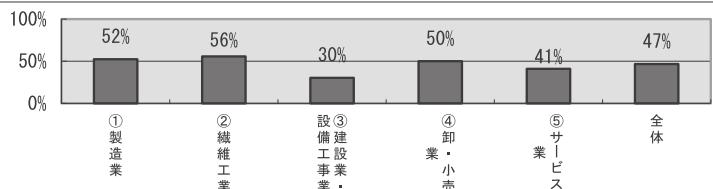
1. 経営の見通し（将来性）

①. 製造業	23
②. 繊維工業	8
③. 建設業・設備工事業	10
④. 卸売業・小売業	10
⑤. サービス業	16
全　　体	67



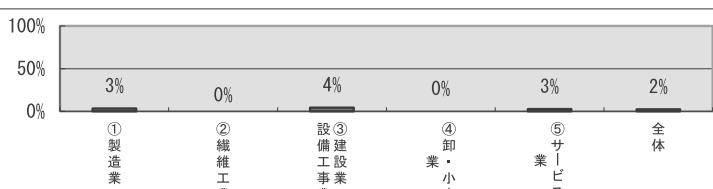
2. 売上（受注）の低下

①. 製造業	32
②. 繊維工業	10
③. 建設業・設備工事業	7
④. 卸売業・小売業	15
⑤. サービス業	16
全　　体	80



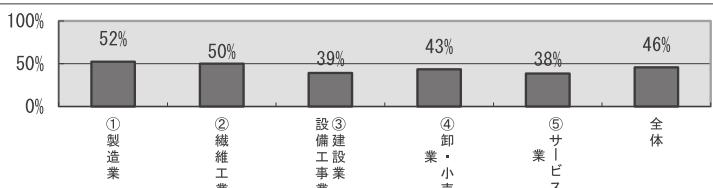
3. 工賃（請負）単価の低下

①. 製造業	2
②. 繊維工業	0
③. 建設業・設備工事業	1
④. 卸売業・小売業	0
⑤. サービス業	1
全　　体	4



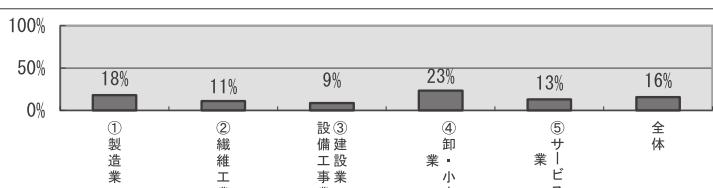
4. 原材料（商品）仕入価格の上昇

①. 製造業	32
②. 繊維工業	9
③. 建設業・設備工事業	9
④. 卸売業・小売業	13
⑤. サービス業	15
全　　体	78



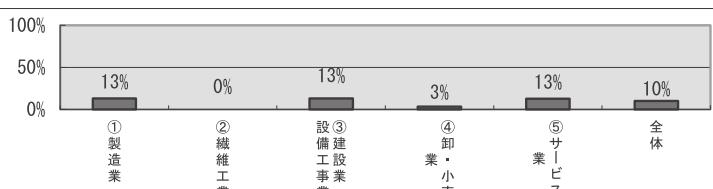
5. 資金繰りの悪化（資金調達など）

①. 製造業	11
②. 繊維工業	2
③. 建設業・設備工事業	2
④. 卸売業・小売業	7
⑤. サービス業	4
全　　体	26



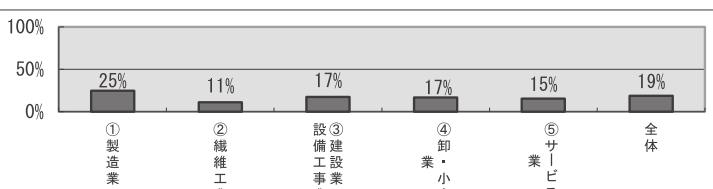
6. 既存事業の立て直し（コスト削減等）

①. 製造業	8
②. 繊維工業	0
③. 建設業・設備工事業	3
④. 卸売業・小売業	1
⑤. サービス業	5
全　　体	17



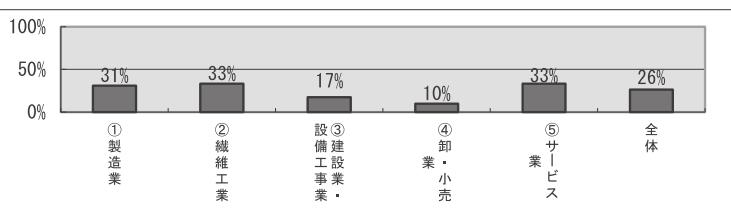
7. 経費（人件費・外注費）の増加

①. 製造業	15
②. 繊維工業	2
③. 建設業・設備工事業	4
④. 卸売業・小売業	5
⑤. サービス業	6
全　　体	32



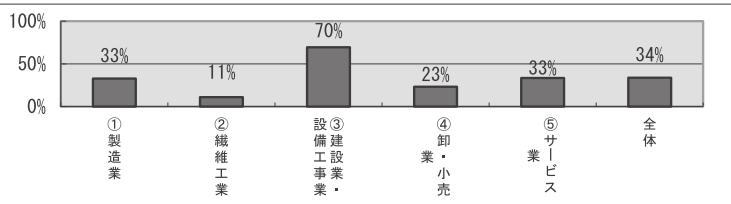
8. 設備・店舗・工場等の老朽化

①. 製造業	19
②. 繊維工業	6
③. 建設業・設備工事業	4
④. 卸売業・小売業	3
⑤. サービス業	13
全　　体	45



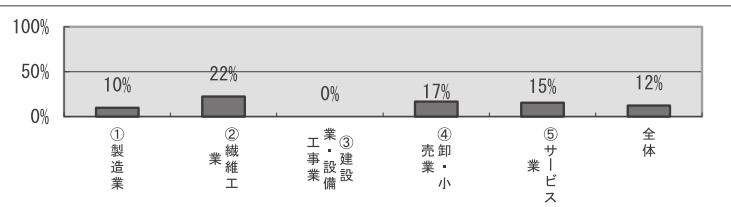
9. 従業員・技術者等の確保難

①. 製造業	20
②. 繊維工業	2
③. 建設業・設備工事業	16
④. 卸売業・小売業	7
⑤. サービス業	13
全　　体	58



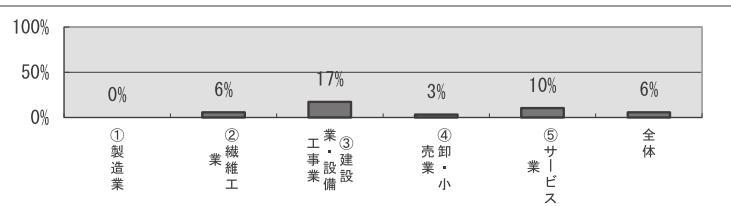
10. 消費者（製品）ニーズの変化

①. 製造業	6
②. 繊維工業	4
③. 建設業・設備工事業	0
④. 卸売業・小売業	5
⑤. サービス業	6
全　　体	21



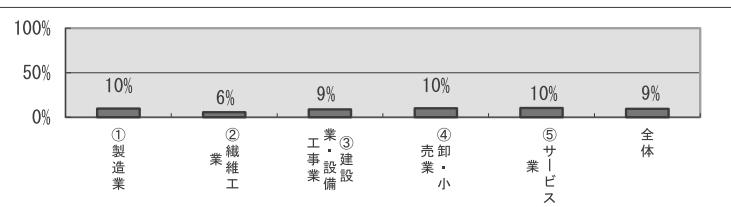
11. 業者間(大企業進出・新規参入)競争の激化

①. 製造業	0
②. 繊維工業	1
③. 建設業・設備工事業	4
④. 卸売業・小売業	1
⑤. サービス業	4
全　　体	10



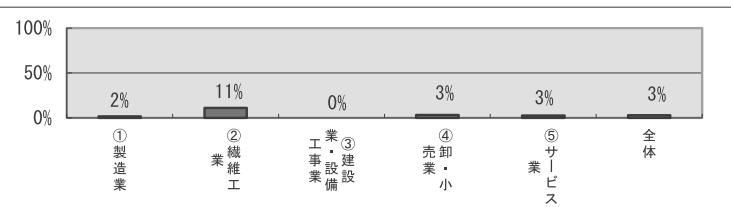
12. 後継者難と事業承継

①. 製造業	6
②. 繊維工業	1
③. 建設業・設備工事業	2
④. 卸売業・小売業	3
⑤. サービス業	3
全　　体	15



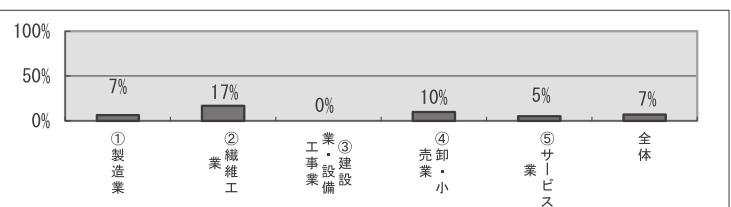
13. 円の動向による影響

①. 製造業	1
②. 繊維工業	2
③. 建設業・設備工事業	0
④. 卸売業・小売業	0
⑤. サービス業	1
全　　体	4



14. 電気料金値上げに伴う対応

①. 製造業	4
②. 繊維工業	3
③. 建設業・設備工事業	0
④. 卸売業・小売業	2
⑤. サービス業	2
全　　体	11



【経営上の問題点】

経営上の問題点では、全体で「売上(受注)の低下」を挙げた企業が47%で最も高く、次いで「原材料(商品)仕入価格の上昇」(46%)、「経営の見通し(将来性)」(40%)、「技術者(従業員)の確保難」(34%)、「設備・店舗・工場等の老朽化」(26%)と続いている。

どの業種でも「売上(受注)の低下」「原材料(商品)仕入価格の上昇」「経営の見通し(将来性)」を問題点として多く挙げており、また、前回に引き続き、建設業・設備工事業では、「技術者(従業員)の確保難」(70%)が大きな課題となっている。

ワクチン接種の進展に伴い、政府から日常生活回復の方針が示され、経済活動正常化への期待感が広がっている。一方、当面の間は感染対策が求められ、受注・売上減少や客足回復の遅れが継続することから、経営への影響を不安視する声が多い。

【景況に關することや直面している問題点等のコメント】

◎製造業

- ・カーボンニュートラル化に向かって、原材料の高騰、不足により今後の動向の見通しがつかず心配である。
- ・鋼材価格の値上がりが止まらない。原材料の入荷が大幅に遅れている。自動車メーカーの休業による影響が出ている。
- ・基盤やワイヤーハーネスなどの部材が入荷待ちとなっているためメーカーの生産ラインが予定通りに動かない状況が続いている。
- ・来年3月までが期限であるBCP(高濃度)の廃棄処分において、今年の3月までは補助金の上乗せがあったが、今年度はまだないので、処分費用の負担が大きいことが懸念材料。
- ・海外のプラントで製造している原材料が現地のロックダウンの影響で生産が減少している上に、物流が滞っているため、入手困難・大幅遅延になっている。
- ・昨年からの不況がジワジワと広がり、例年繁忙期である秋冬期が忙しくなく、売上・利益とも悪化。市場も縮小傾向にあり、心配がつきない。
- ・スバルの工場のライン停止が痛い。
- ・原材料の価格上昇が著しく、価格転嫁に浮浪している。
- ・国内はコロナ禍で不況状態にある。しかし海外に目を転じると中国は基本的にはコロナ禍を克服して成長軌道に戻っている。米国も今年度はプラス成長となる見込みとなっている。会社の業績を好転させるには自社を世界の成長センターとどう結び付けていくかにかかっていると思う。

◎繊維工業

- ・ファッショングループ業界も感染者数の減少により回復の兆しが見えてきているものの、受注が一部の会社に集中しており、まったく仕事がないところと両極端になっている。
- ・学生用ニットは前年と同様ですが、ファッショングループ系のニットが昨年より多くなってきている。

◎小売業

- ・制度融資の返済猶予を延長してもらいたい。

◎飲食・サービス業

- ・コロナ禍が1年以上続いていると、資金面、体力面、気力などが消耗してしまうのが現状。ただこの問題は、当社だけでなくすべての地域で当てはまると思う。何とか全市を上げて、この難局に立ち向かっていくことが今一番大切だと思う。
- ・自動車、二輪車、部品など、生産・物流が止まり、遅れ、売り玉なしで参った。
- ・大店立地法に行政、政治、民間がおどらされるのをやめるべき。
- ・早急なGoToトラベルの復活、一家族一旅行の早急な実施。

足利市のチラシ折込調査レポート（2021.08）

調査地：足利市伊勢町

2021年8月の足利市の折込広告枚数は257枚で前年比プラス0.8%（前々年比はマイナス27.4%）であった【※栃木県4地区平均では302.3枚、前年比+10.3%】。

※栃木県4地区…足利・宇都宮・那須塩原・小山

サイズ別では、B4(A4)サイズが最も多く全体の58.0%であった。次いでB3(A3)サイズの37.4%となり2種類のサイズが9割以上を占めた。また曜日別では、5回あった火曜日が最も多く全体の20.2%に上り、次いで金曜日の17.9%、土曜日の16.7%、水曜日、日曜日、木曜日、月曜日と続いた。

業種別では食品スーパーが77枚（前年比+6.9%）で、先月に引き続き首位となった。2位は医薬・化粧品で46枚（前年比+35.3%）、3位は家電・精密機器で14枚（前年比-46.2%）であった。4位は12枚で衣料用品店（前年比+50.0%）と不動産・建築（前年比+33.3%）が並び、上位5業種の中では、家電・精密機器を除く全ての業種がプラスとなった。

		3月	4月	5月	6月	7月	8月
足利	枚数(枚)	357	329	280	286	314	257
	前年比(%)	7.5	68.7	94.4	15.8	8.3	0.8
	前々年比(%)	▲27.0	▲21.3	▲22.7	▲23.5	▲18.7	▲27.4
栃木県平均	枚数(枚)	386.8	368.0	322.0	349.5	367.0	302.3

※栃木県平均…宇都宮・那須塩原・足利・小山地区の平均枚数

業種別出稿枚数ランキング(足利市)

(2021年8月1日～31日)

順位	業種（細分類）	枚数			前年比 (%)	前々年比 (%)
		21年	20年	19年		
1	食品スーパー	77	72	91	+6.9	-15.4
2	医薬・化粧品（ドラッグストア・通販等）	46	34	48	+35.3	-4.2
3	家電・精密機器	14	26	30	-46.2	-53.3
4	衣料洋品店	12	8	15	+50.0	-20.0
	不動産・建築	12	9	19	+33.3	-36.8

サイズ別枚数 (2021年8月1日～31日)

曜日別枚数 (2021年8月1日～31日)

サイズ別					曜日別						
B1(A1)	B2(A2)	B3(A3)	B4(A4)	B5(A5)	日	月	火	水	木	金	土
0	6	96	149	6	38	13	52	41	24	46	43
0.0%	2.3%	37.4%	58.0%	2.3%	14.8%	5.1%	20.2%	16.0%	9.3%	17.9%	16.7%

調査：(株)栃木読売 IS